

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル 1：活火山であることに留意）が継続＞

13日18時頃から規模の小さな火山性地震が増加しています。その他のデータには特段の異常は認められません。

十勝岳では、直ちに噴火に至る兆候は認められませんが、ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

○活動概況

13日18時頃から規模の小さな火山性地震が増加しています。震源は概ね62-2火口付近の浅いところと推定されます。今回の活動は、山麓の観測点では記録されない微小な地震がほとんどであり、4月の地震増加時と比較すると、地震活動の規模は小さいと考えられます。（図3～5）

14日05時51分頃の地震（マグニチュード1.0（速報値））では、山麓の吹上温泉地区で震度1程度の揺れを感じたとのこと。震源は今回地震が主に発生した場所からは離れた、旧噴火口付近の深さ1km程度と推定されます。十勝岳で発生した地震により、周辺で揺れを感じたのは平成24年12月2日以来です。

なお、火山性微動は発生していません。また、地殻変動や遠望カメラによる62-2火口及び大正火口の状況に特段の変化は認められません。（図2）

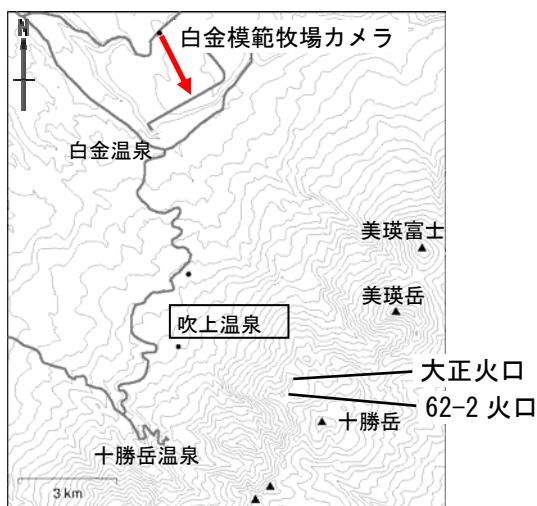


図1 十勝岳 遠望カメラ位置
及び撮影方向（赤矢印）



図2 十勝岳 北西側から見た山頂の状況
（7月13日20時 図1の矢印方向より撮影）
・なお、7月13日20時30分から14日8時頃まで
雲のため不明でした

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

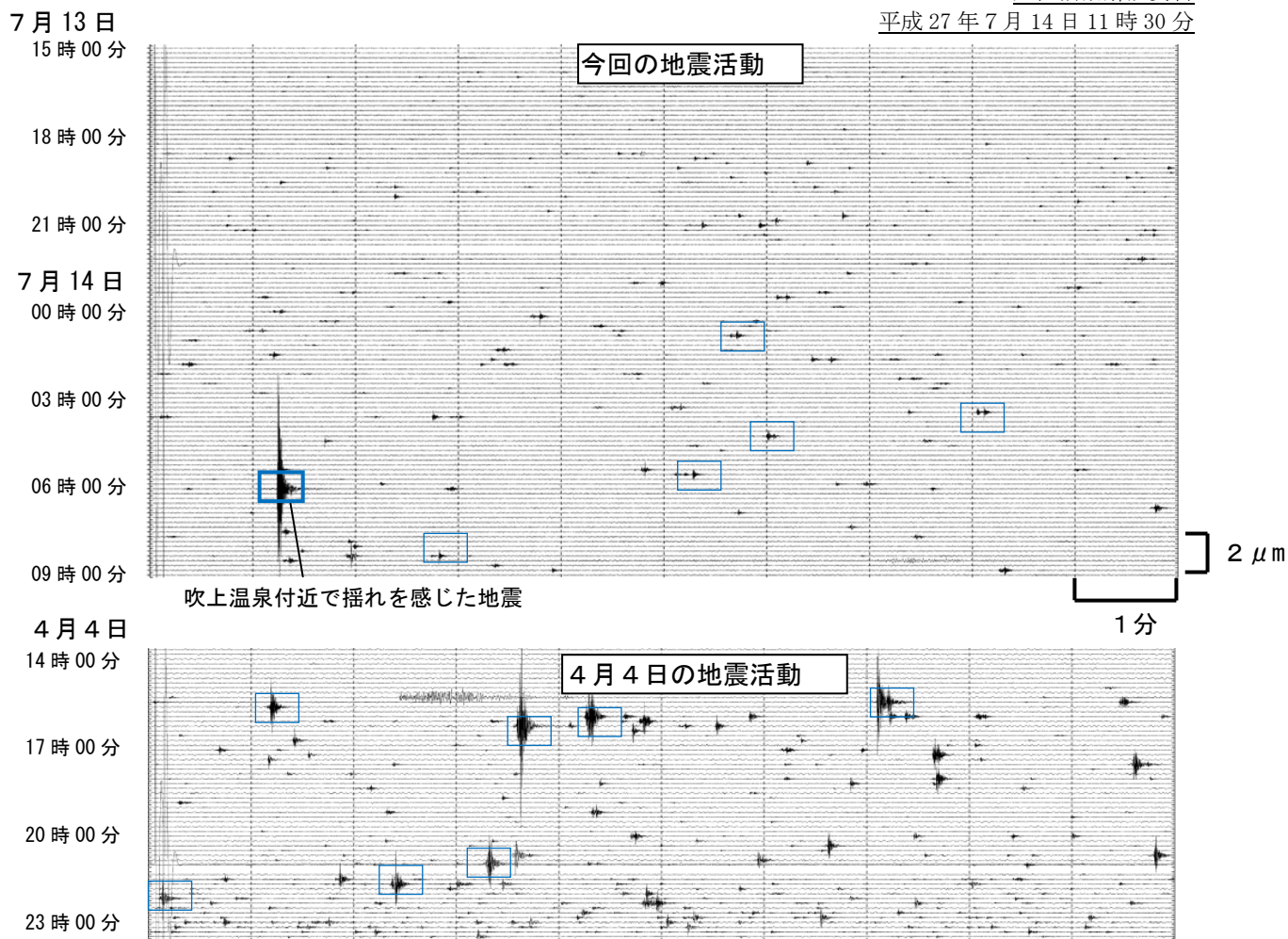


図3 十勝岳 火山性地震の発生状況

(上：7月13日15時～14日09時、下：4月4日14時～24時)

- ・避難小屋東（活動火口に近い観測点）による変位波形
- 地震回数：13日71回、14日00時～09時まで74回（暫定値）
- ・四角で囲ったような振動は全て火山性地震を示しています。

震央分布

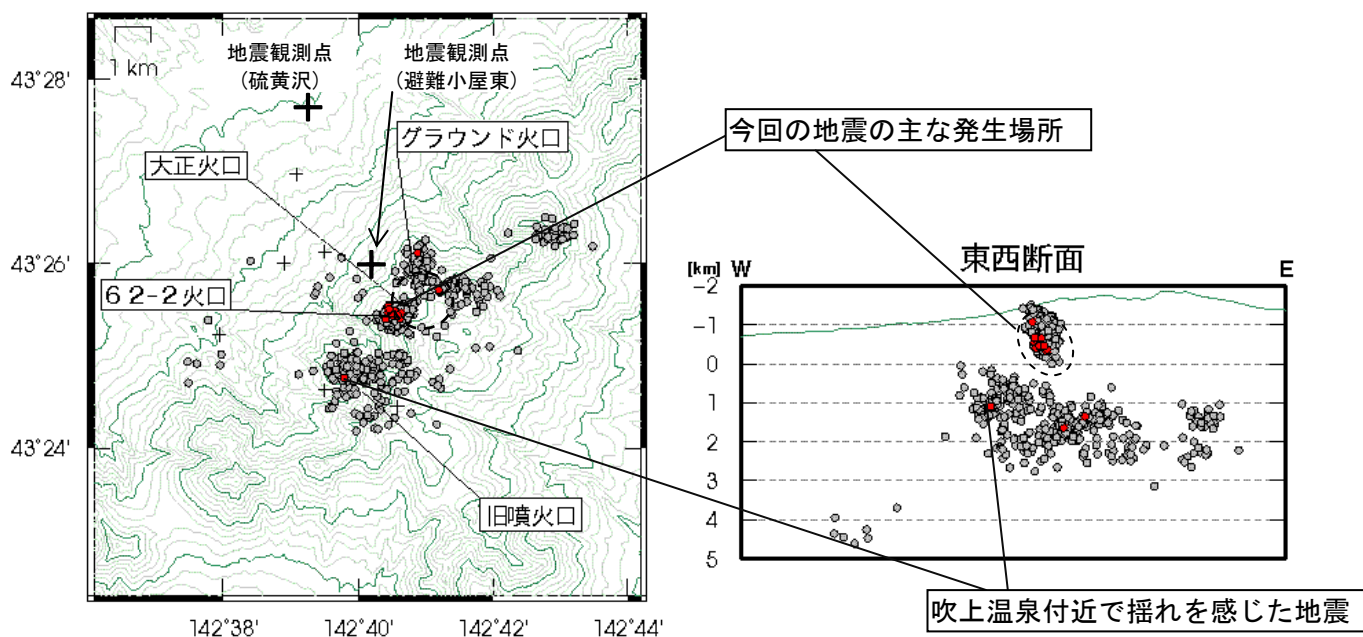


図4 十勝岳 震央分布図（暫定値）

- 印：2013年1月～2015年7月12日の震源
- 印：2015年7月13日～14日07時までの震源

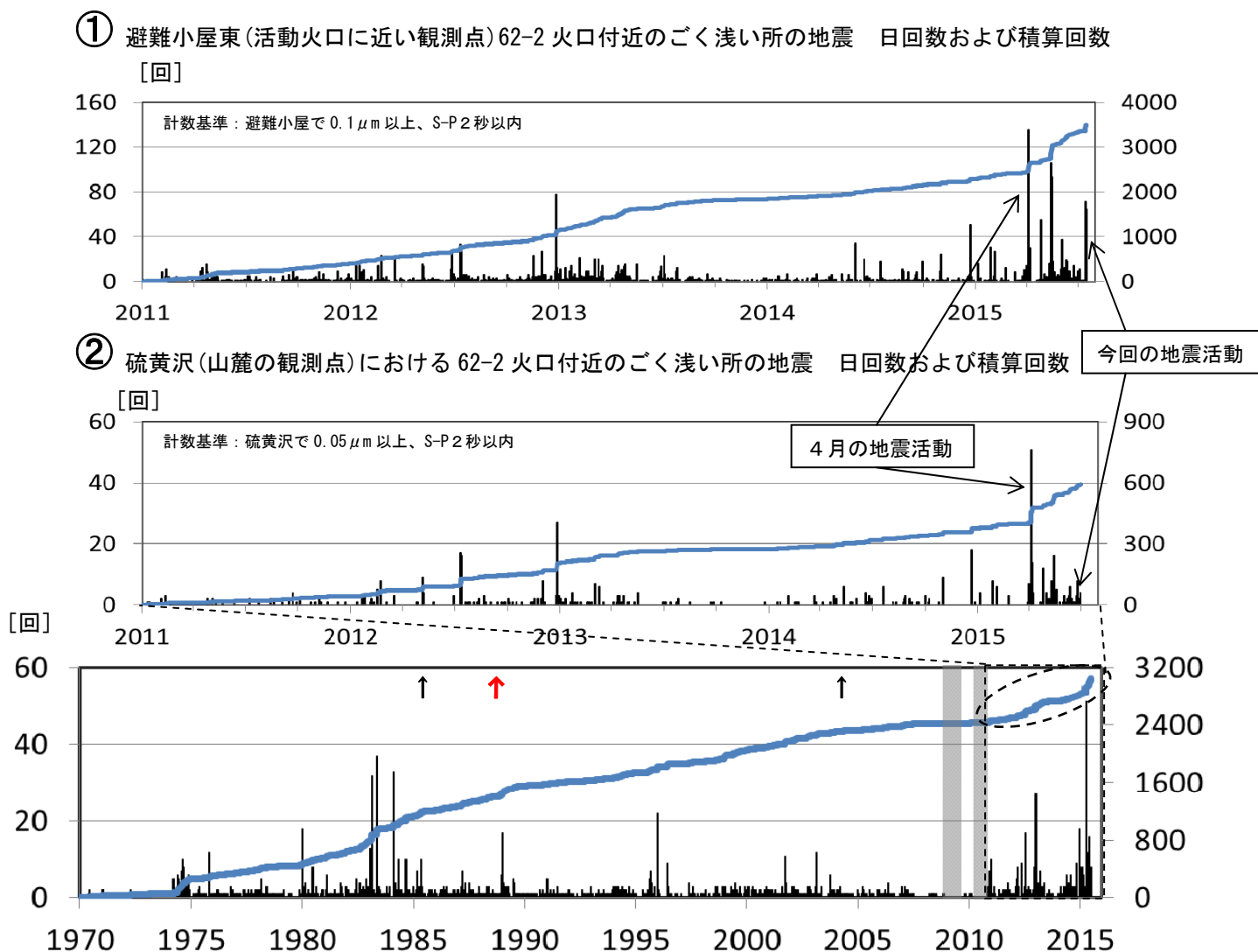


図5 十勝岳 発生場所別の火山性地震の日回数及び積算回数推移

(①, ②の上段：2011年1月1日～2015年7月14日07時)

(②の下段：1970年～2015年7月14日07時)

- ・①は避難小屋東(活動火口に近い観測点)で計測した回数を示しています
(計数基準： $0.1 \mu\text{m}$ 以上、S-P 2 秒以内)
- ・②は硫黄沢(山麓点)で計測した回数を示しています
(計数基準： $0.05 \mu\text{m}$ 以上、S-P 2 秒以内)
- ・青線は積算回数を示します
- ・↑は水蒸気噴火、↑はマグマ噴火の発生を示します
- ・図の灰色の部分は欠測を示しています
- ・62-2火口付近のごく浅い所の地震は、2010年頃からやや多い状態となっています
(②の楕円破線部)